

# 平成25年度 妙高市生徒指導部 活動報告

部長 望月 正樹（妙高小）

## 1 研究主題

- ・かかわり合う中で、12年間の社会性育成を考える  
～園・小・中・特別支援学校での社会性を見つめ直す実践から～

## 2 研究の概要

(1) 第1回部会【春の研修】4月18日(木曜日) 一斉研修日

- ①平成25年度妙高市教育研究会の組織及び事業
- ②生徒指導部会（重点部会）としての捉え方の確認

(2) 第2回部会【夏の研修】8月22日(木曜日)

- ①社会性育成（園・小・中・特別支援学校 連携社会性育成を）含む調査シートの紹介(途中経過)と話し合いを行った。各園・各学校で必要部数（生徒指導部会の部員数プラス3部）を印刷し、研修日当日持参した。
- ②持ち寄ったシートをもとに、部員間で取組について紹介し合った。

(3) 第3回部会【秋の研修】10月29日(火曜日)

- ①当日は、少人数グループで、「12年間の社会性育成プログラム」を完成させた。KJ法的な手法と園・小・中・特支のバランスを考えてのグループ編成を行った。
- ②「社会性育成連絡調整シート」の作成と、話し合い、協議等を行った。具体的なシート作成により、12年連続の社会性育成の観点を明確にした。

## 3 研修の実際

(1)(2)については省略し、(3)についてその時の研修の実際について述べる。

参加者を3グループに分け、①保護者や地域との連携、そして②関係機関との連携を話し合った。3~4人の構成なので必ず発言をすることが前提で、深い話し合いがもたれた。30分ずつ①②のテーマについて、合計1時間話し合い、結果を模造紙に書き上げていった。

最後に短時間ながら、各グループで取り上げた事柄について発表し合い、質疑応答を行った。



## 4 成果と課題

普段は自校の取組を外から見つめ直すという機会が少ないので、参加者からはその意味で有意義だった、という声が聞かれた。貴重な時間を過ごすことができた。

しかし、かかわり合う中で、園児、児童、生徒の社会性の育成を図っていくことを考えた時、私たちが何故、連続した教育課程の中でこの活動に終始するのかを、市教研全体の取組の中でより明確にしていくことが、課題として見えてきた。

次年度以降も、生徒指導を考えるに当たり、社会性の育成と継続的対応について、それぞれの職員の置かれた立場で取り組むことが重要であると捉えている。